大阪早稲田倶楽部NEWS

てくてくハイキング

復活ハイクは生駒山へ

緊急事態宣言が終了した後の2021年10月16日、これまで順延となっていたハイキングが倶楽部の部会行事として復活した。近鉄生駒駅に集合し、生駒山頂を目指した。

山頂へは登山道を使わず生駒ケーブルカーに乗って上る。近鉄生駒駅の標高は147m、山頂は標高642mもある。その標高差495mをケーブルカーに乗って上れるのだから、お世辞にも健脚とはいえない私には利用しないという手はない。今回は山頂から大阪平野を見ながら下山するハイキングコースなので、ケーブルカーが山頂へと上るにつれて車窓に広がってゆく奈良盆地の景色を悠々と楽しむことができた。

生駒山上駅に着くと目の前は生駒山上遊園地の入り口だ。入場無料だ。中には様々な有料の遊具があり、あちらこちらから家族連れで来た子供達の歓声が聞こえる。同園のシンボルは、開園当時から90年経った今も現役の大型遊具「飛行塔」だ。同園は戦時中は休園し海軍の基地として使用された。戦時中の金属回収令で多くの金属が回収された中、飛行塔は軍の防空監視所に使われたことで奇跡的に残った。

遊園地を抜けると放送局の鉄塔が所狭しと並んでいる地域に入る。生駒山頂の鉄塔から発せられる地上波を受信している私は、毎日楽しませてくれる放送局の鉄塔を見ると強い親近感を感じる。この地域を抜けるとひたすら下りのハイキング道が続く。道の多くは雑木林に囲まれているが、所々に平地の展望台があり、広い大阪平野を見渡すことができた。天気が良かったので、あべのハルカスは勿論、大阪市内中心部の高層ビル群や花園ラグビー場も目視で確認することができた。

更に山道を下ると大阪と奈良の県境にある暗峠にたどり着く。日本の道100選にも選ばれている峠で、江戸城と西国との参勤交代で使われていた頃から、急坂で殿様が乗った篭が滑らないよう街道は石畳で敷き詰められていたという。

最後は官幣大社であった枚岡神社の広い境内を通って標高26mの終点近鉄枚岡駅にたどり着いた。実に山頂から616mの標高差を参加者同士励まし合いながら下山したので自然と参加者の間に相手を気遣う仲間意識が沸いてくる。下山時に膝に掛かった負担や翌日に襲ってきた脚の筋肉痛を考えると、登りでケーブルカーに乗ったのは正解だったと思う。

田村昌之（昭和54年法）

英国でのコロナ禍は――在英弁護士が語る

Wフォーラムのオンライン講座が8月20日、ZOOMで開催されました。講師は英国在住の弁護士絹川健一さんでテーマは「コロナ禍のロンドンから」。何度もロックダウン（都市封鎖）するなど厳しい対策が取られた英国の現状についての生のリポートは新鮮でした。

絹川さんは、稲門ではなく京大法学部を卒業後、検事に任官。東京地検特捜部、法務省刑事局などを経て在英国日本大使館一等書記官の勤務後に退官され、英国の永住権取得後、日英で弁護士として活躍されています。現在53歳で英国在住17年になられます。

英国はかかりつけ医による診療がメーンとなっており、ロックダウン期間中はその診療が全面停止。電話での相談もアポが必要で1か月もしてから看護師からの電話があったものの医師と話せず、アポを取り直し。また、持病の処方箋も入手困難だったというのが実態で、日本のメディア報道で英国の医療制度を賞賛していたのには首をかしげざるを得ません。

絹川さんによると英国の医療体制は脆弱で、保険制度も日本より大きく劣っていて、感染による犠牲者も日本とは比べならないほど多く出ており、その犠牲を払った上での今日があるとのことでした。

日本との違いで言えば、英国では元々、在宅勤務制が浸透していましたが、コロナ後はフレックス勤務が進み、現在の出社率は10％に満たないそうです。

徐々に戻そうとしていますが、なかなか戻らず、在宅プラス週2～3日出勤の勤務が主流になるかもしれないようです。

今回、日系の報道機関でなく現地で生活されている方のお話をうかがうことができ、大変ためになった講義でした。

遠く離れた英国とリアルタイム映像でつながるZOOMならではの好企画でした。

松井　瑛太郎（平22年法）

ZOOMでのオンライン講座の様子

コロナ禍と心のケア

「長引くコロナ禍と心のケア」をテーマにWフォーラムのオンラインZOOM講座を9月24日に開きました。講師は精神科医・産業医の中野三穂さん。

平成9年商学部卒で、同大学院を中退後、聖マリアンナ医科大に進まれました。長引くコロナ禍で起きている医療現場や企業の変化、それらへの対応の変化の経験を、ご専門である「こころへの影響」という視点から語っていただきました。

一口にコロナウイルスの感染と言っても、私たちが一般的に考える生物学的感染症だけでなく

①理解できない、分からないものに対する不安と恐れ→心理的感染症

②不安や恐れが他者への偏見・差別を生む→社会的感染症（医療従事者やその家族、ワクチン非接種者への差別など）に分類される複合的な感染症であり、しかもこれらが負のスパイラルを形成しています。

結果として、コロナからのストレス、不安が生活のほとんどに影響を与えているのが、今の社会だと言えるわけです。

心理的感染症や社会的感染症が蔓延する中で、私たちが冷静さを保つためには、

①不安、恐れを否定せずに受容した上で、叶う限り正確な情報に基づいて、自分自身で考える。そして問題を自分だけで抱えこまない。

②組織の中では、メンバーの「いつも」を知り変化に気づくことが肝要だそうです。自身やメンバーの不調のサインは見逃さず、直ちに医療専門家、産業医療スタッフに相談する。

これらは、口で言うのは易くとも実際に行動に及ぶのは大変なことですね。では、私たちがとりあえず出来ることは何か。

コロナ禍の中、多くの人が困難ストレスを抱えながら過ごしていますが、

①不安、不正感といった「心のもや」を言葉にしてみる。

②心が疲れたなあと思う時は周囲に語りかけてみることが大切だということです。

中野さんのお話しは大変わかりやすく、自分のコロナ禍メンタル対応に自信を持たれた方も多かったのではないでしょうか。久しぶりの校友講師だったのと、チャキチャキ中野講師のお人柄もあって、みなリラックスして楽しくお話しをうかがいました。

最後に、中野さんによればコロナの収束はウイルスが消えることではなく、社会や個人が蔓延に納得し、それに対処できるようになってようやく可能になるということでした。

豊島恵子（法）

Wフォーラム

福沢諭吉と大隈重信 ～百年の知己

倶楽部のWフォーラム・オンライン講座が7月2日午後7時からZOOMで開催されました。

コロナ禍の今こそ早慶交流をと福沢諭吉研究家の坂本浩一さん（昭和58年慶応大卒）を講師に招き、実施しました。

福沢諭吉は大隈重信は取っ付きにくい相手と思っていたようですが、一度知り合ってからはお互い一風変わっていて面白いのですぐに懇意になり、たちまち百年の知己のごとくの間柄となって、家族ぐるみの付き合いが続いたといいます。

偉大な思想家であり教育者だった福沢諭吉の人間味あふれる一面を存分に語ってもらい、坂本さんは「大隈先生と諭吉の『百年の知己』をいつまでも忘れません。これからも両校の親睦友好をさらに発展させ、新しい時代をみなさまとともに作っていけるよう頑張ります」と締めくくられました。

諭吉翁について語る坂本さん

例会

コロナ禍での決断

倶楽部の部会として定着した「例会」の第6回が10月8日、ZOOMで開催されました。

倶楽部員で古典教養大学オンライン学長の宮下友彰さん（平成22年政経）が「コロナ禍での決断！オンライン大学設立秘話～臆病者は何度も死ぬか～」をテーマに講演されました。

宮下さんは大手広告代理店勤務を経て30歳でマジックを業として独立。2019年5月の倶楽部創立100周年記念式典では、ステージで鮮やかなマジックを披露し、会場を大いに沸かせたのは記憶に新しいところ。

その後、「魔法大学」を開校し、コロナ禍を受け、業態を替え、「古典教養大学オンライン」を創業されました。現在は受講者は海外も含め1000人を超える盛況となっています。

この日の講演では起業にいたる背景や自分の想いを追い求める大切さなどを語ってくれました。

大阪百景

大阪城や通天閣、グリコの看板ほか大阪の定番のように映し出される風景があります。一方、これはインスタ映えするとか面白いスポットもあります。そんなのをあちこちから拾ってみました。みなさまからもお寄せください。

●難波八阪神社（浪速区）の獅子殿。インスタで結構人気です。

●道頓堀ホテル（中央区）の玄関にすくっと立つ4体。はっとしますよね。

大阪早稲田倶楽部　早稲田大学校友会大阪府支部

WASEDA ALUMNI SINCE 1885

TEL.06（6377）2002　FAX.06（6377）2003　http://www.osakawaseda.jp　e-mail: 125@osakawaseda.jp